# 医療人として 憲法9条、25条を守ろう ⑳

「おおさか医科・歯科九条の会」

## 変えないほうが得

加藤 一成（歯科医師）

軍隊がないと外国に攻められるから不安だという人が結構多い。私もそう思っていた時期があったが、伊藤真先生の講演によるとそうではないらしい。そもそも軍隊は、市民生活を守るためのものではないのだ。元自衛隊の幕僚長の著書に書いてあるのだから間違いないのだろう。被災地で活動するのは自衛隊の本来の業務ではなく、テロ活動にも無防備でテポドンが飛んできても迎撃ミサイルで守れるのは基地周辺のみだ。つまり軍隊というものは、伝統や文化などを守るためのものではなく、市民の生活を守るのは警察である。これが世界の一般的な考え方だそうだ。

テレビなどを見ていると、「今の憲法は外国に押し付けられたものだからそんな憲法は変えなければいけない」と言う人も多い。

私が知っている限りでの憲法を変えようという発端や経緯となっているのが、湾岸戦争で日本がお金だけを出してけしからんと外国に言われた頃からのように思う。このこと自体、外国からの押し付けであり、押し付けられた憲法を外圧によって変えるのなら、わざわざ変えなくていい。

私は今の憲法が好きだ。戦争しなくていいなんてすばらしいことではないか。なぜわざわざ憲法を改定して戦争のできるようにしようとするのか。押し付けられた憲法で、戦争しないことを公認されていると外国に対して言い訳し続ける日本であり続ける方が、改憲するよりずっと得なように思う。

9条を変えるのと変えないのとではどっちが得かと聞かれたら、変えないほうが得であると即答できる。正しいから変えないというより、得だから変えないというスタンスの方が、より一般受けしそうだし、護憲運動が広がるのではないか。

## ほんBook

**『その時赤ん坊が私の手の中に』**
**『勇気の源は何ですか』**
**『9・11 マスターキーから何が見える？』**

各300円 A5判64ページ
発行 憲法9条・メッセージ・プロジェクト

国民投票法案が国会を通過し成立した。戦後60年、曲がりなりにも平和と繁栄の世の中が続いてきた我が国は、ここに来てその体制を変えようとする流れが大きくなってきている。それにどう応えるか国民の態度表明が問われている。

そのことの重大性を理解する上で、最近優れた本を目にした。立命館大学国際平和ミュージアム館長・安齋育郎氏を中心にまとめられた4つのブックレットである。①安齋育郎氏の「こんどの騙しは手ごわいぞ」②元アメリカ海兵隊員アレン・ネルソン氏の「その時赤ん坊が私の手の中に」③ジャーナリスト・伊藤千尋氏の「勇気の源は何ですか」④複数の証言者の語りをまとめた「9・11マスターキーから何が見える？」の4冊である。

安齋氏は、戦争が為政者の「だまし」によって始められたことを、事実を示して騙されないようにと訴えている。ネルソン氏は、ベトナム戦争の生々しい体験を通して日本国憲法の先駆性を切々と心情に訴えている。伊藤氏は、新聞記者の知識と体験をもとに世界から見た日本国憲法を理路整然と語る。最後の一冊は、9・11事件の目撃・体験証人による状況証拠から、いったい誰が事件の真犯人かを問いかけている。

下手な私の紹介よりも、とにかく読んで頂くことを願わずにいられない。

（城東区・玉川和隆）

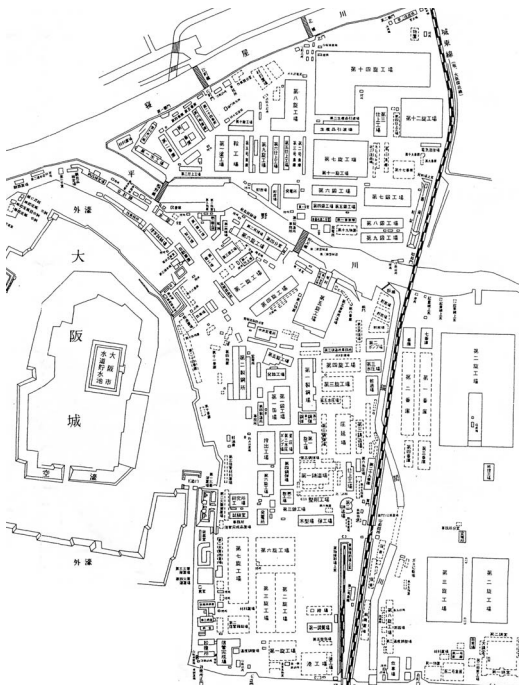
大阪ウォッチング

## 戦前の大阪城 日本一巨大な軍事工場

### 今も残る戦跡 玉造から鴫野を歩く

女性医師・歯科医師の会

「環状線は全線高架？いや京橋駅から森之宮駅間は地上を走っている。この事実こそ戦前、日本一巨大な軍事工場『大阪砲兵工廠』があった証。当時は城東線と呼ばれていたこの区間の両側は、高いコンクリート塀に覆われていた。スパイや一般人に軍事工場を覗かせないためだった」。協会の女性医師・歯科医師の会が6月16日取り組んだ「おおさかウォッチング―今も残る戦跡 玉造から鴫野を歩く」で、案内人の西俣稔氏は参加した歯科医師や医師、家族ら12人に、今の大阪城公園の景観からは想像できない歴史を語った。



（上）大阪陸軍造兵廠全図（大阪砲兵工廠慰霊祭記念出版『鎮魂』から）
（下）戦病死兵の墓が約5300基以上ある戦争遺跡で説明を聞く参加者

西俣氏は、砲兵工廠は明治3年、富国強兵政策のもとで「造兵司」として大阪城内に設置。拡張に拡張を重ね、終戦の年には200近い軍事施設と6万4千人もの工員が働く巨大な軍事工場になった。昭和20年8月14日の終戦の前日、米はポツダム宣言の受諾を渋る日本政府にトドメを刺すため、砲兵工廠はB29・161機により徹底的に破壊された。1トン爆弾は京橋駅にも命中し、200数十人の命が奪われた。砲兵工廠の犠牲者を合わせれば千人を超えるといわれている。戦争の悲惨さ、砲兵工廠のことを語り続けることが、せめてもの私にできる被害者への弔いである、と語った。

真田山の三光神社に案内する西俣氏。空襲で折れた「片柱の鳥居」を示し、「昭和20年6月1日の空襲で本殿が焼けた。昭和47年に復興した時、この鳥居をどうするかとなったのだが、不細工やけど戦争の跡。痛ましい戦争をやめてもらうためにこのままに」と宮司の言葉を紹介した。

神社の裏手に歩を進めると、さらに大きな戦争遺跡があった。真田山陸軍墓地である。木の生い茂る約1万5千平方㍍の敷地に、高さ約80㌢の墓碑が整然と並ぶ。西南戦争以来の戦病死兵の墓が約5300基以上ある。さらに奥へ行くと、巨大な墓石が数墓並ぶ。墓の主は少佐や中佐。一兵卒とは墓の大きさまで違う。「死んでも格差が」と西俣氏、「このような無数の尊い犠牲の上に現在の平和があることをもっと知って欲しい」と話した。

ウォッチングはほか、日之出通商店街や、聖マリア大聖堂を訪れた。

# 協会行事案内

講習会へ参加ご希望の方は、必ず事前に協会までお申し込み下さい。

お申し込みは 電 話 06-6568-7731 ファクス 06-6568-0564

**女性医師・歯科医師の会「余技展」**
**日程** 7月10日(火)～14日(土) 午前10時～午後7時（最終日は午後5時まで） **入場料** 無料
**会場** 薬業年金会館ギャラリー（地下鉄谷町線・長堀鶴見緑地線「谷町6丁目」駅下車すぐ）

**東西南地区・院長セミナー**
**「ヘルスプロモーション型歯科医院が生み出すニューコンセプトクリニック―この出会いが私の運命を変えた―」**
**日時** 7月15日（日）午前10時～正午
**講師** 寄田幸司氏（東大阪市開業）
**会場** M&Dホール（保険医会館東隣り）
**会費** 会員無料、未入会者1万円 **定員** 120人

**医療安全管理指針の説明会**
**日時** 7月21日（土）午後6時～8時
**会場** M&Dホール **定員** 120人
**講師** 社保研究部講師団
**会費** 会員無料、未入会者1万円
**内容** 義務付けられている「医療安全管理指針の策定」や「院内事故報告書」「職員研修」など医院での必要な対策を解説する。

**7月度生涯研修**
**「機能する総義歯づくりのコンセプト～初期設定から機能回復まで」**
**日時** 7月22日（日）午前10時～午後1時
**会場** M&Dホール（保険医会館東隣り）
**講師** 三木逸郎氏（姫路市開業） **定員** 100人
**会費** 会員3千円、未入会者1万円
※生涯研修カードをご持参ください

**普通救命講習会**
**「心肺蘇生法とAED（自動対外式除細動器）の使用法について」**
**日時** 7月26日（木）午後4時～7時（3時間）
**会場** 浪速消防署 **定員** 30人（締切7月18日）
**講師** 浪速消防署
**会費** 会員、会員院所スタッフ無料
＊講習修了者に「普通救命講習Ⅰ」修了証を交付

**東西南地区・医科中央地域懇談会共催**
**「増える病・医院トラブルにいかに対応するのか―地域性を反映したトラブルを中心に―」**
**日時** 7月28日（土）午後4時～6時
**講師** 尾内康彦氏（医科協会事務局次長）
**会場** 保険医会館 **定員** 60人
**会費** 会員無料、未入会者1万円

未入会者とは、協会に加入することができる歯科医師です
※協会行事などを本紙で報道するため、講習会などの写真で個人が特定されることがありますが、趣旨をご理解の上、ご了承ください。また、講習会でのビデオ撮影や録音はお断りします。
※M&Dホールとは、医科・歯科両協会が協同組合会館5Fに共同で建てたホールの名です。